

地域の皆様と川島ロイヤル・ワム・タウンを結ぶ広報誌

# ふれ愛

NO.  
104  
2021.2月号

<https://www.loyal-wam-town.jp/>



Contents

## 丑年を迎えての 取り組み

介護老人保健施設・平成の森

リハビリテーション部のゆく年くる年

平成の森・川島病院

新年に向けて～正月飾り

平成の森・川島病院

餅つき大会を行いました

介護老人保健施設・平成の森

温冷配膳車を導入しました

ロイヤルケアホーム川島

クリスマスのレクリエーションを行いました

平成の森・川島病院／介護老人保健施設・平成の森





通所リハビリテーションでは、昨年末に今年の干支である「丑」をテーマに「丑の置き物」、「組み合わせ丑」という作品を制作しました。

丑の置き物は、ペットボトルに小麦粉で作った澱粉糊を使い、紙を幾重にも貼り合わせて、牛の模様・色を装飾して仕上げます。干支の飾り物が縁起物であるためか、予想よりも多くの方々に参加いただきました。糊で手先を汚しながら、ちぎった紙を貼り合わせる工程を、嬉々として楽しまれていたようです。茶や黒牛、白黒のホルスタイン、はたまた独創的な色合いだったり、模様をハートにしたり個性的な「丑」たちが出来上がりました。

組み合わせの丑は、利用者の皆様に、今年の抱負・目標、意気込みなどを「牛のメッセージカード」に書き込ん

でいただき、それを組み合わせることで、1頭の大きな丑を作りました（縦180cm・横250cmの紙に作成）。皆様から集めたメッセージ（抱負）は137枚。利用者の方々は、出来上がりの作品を見て自分の書いたメッセージ（抱負）がどこに貼ってあるのか興味津々で探しておられました。因みに、利用者の皆様のメッセージに多かったのは、やはり「健康」に関することでした。他にはコロナの終息を願う文面、とくに家族や社会全体を思いやる願いが目立ちました。

これからも、たくさんの方々が能動的に楽しんで参加いただけるレクリエーションを創造していけるよう努めていきたいと思っております。

通所リハビリテーション 吉田 将輝

# リハビリテーション部のゆく年くる年

「来年の事を言えば鬼が笑う」とはよくいいますが、去年のことをいったら鬼に怒られるのでしょうか？ 昨年12月29日、リハビリテーション部では毎年恒例であるリハビリテーション室の大掃除を行いました。患者様が横になるプラットフォームや歩く練習をする平行棒、調理練習等で使う食器類や流し台はもちろん、スタッフルームや普段は物置スペースとなっているところまで、徹底的にホコリや汚れを取り除き整理整頓を行います。それほど汚れてないなあと思っても、掃除後はスッキリピカピカになります。

大掃除が終わったあとは、これまた毎年恒例の「川島大明神」の準備に取り掛かります。入院中の患者様に少しでもお正月の気分を味わって頂けたらと思い、作業療法士が主体となって飾り付けをしております。

当院の回復期リハビリテーション病棟では365日リハ



ビリテーションの提供をさせていただいておりますので、私自身もリハビリの合間に患者様と一緒に「川島大明神」で初詣をさせていただきました。良い年になりますようにと祈願させていただきました。

リハビリテーション部 理学療法士 宮竹 里志



わさり、現在のだるまの形になりました。この倒れない姿から転じて「七転び八起き」「無病息災」「家内安全」の意味が込められています。色にもそれぞれ意味があり、赤は「魔除け」を意味しているそうです。目入れについても順番があり、祈願している1回目は右、達成した後では左に入れるそうです。

当院のリハビリテーション部では1月のレクリエーションとして、折り紙でだるまづくりを企画し、皆さんに参加していただきました。

だるまとは中国の達磨大使というお坊さんの伝承と、日本の起き上がり小法師という倒れない人形が組み合

リハビリテーション部では、七転び八起きの精神で日々患者様と向き合い、一緒にリハビリに励み、一日でも早い退院と退院後の無病息災・家内安全を願いながら努めていきたいと思えます。

リハビリテーション部 作業療法士 大島 樹

## クリスマス会を行いました

夏の花火大会以来のビックイベントに向け、日々企画を考えて参りました。そして夏のイベント同様、3蜜を避け、換気と人数制限をし「クリスマス会」を12月26日行いました。冬の時期という事もあり、換気は寒さが沁みました。しかし参加した利用者様は、華やかに飾り付けされた空間に「綺麗だね」と喜び、職員は感動していました。



毎日暗いニュースが多い中、利用者様の普段見られない顔を見ることができました。職員が手作りするクリスマスケーキを、総勢35名の利用者様と職員とで食べました。利用者様から「おいしかった!」「可愛いケーキだね。」「久々に〇〇さんと話げできた!」と喜びを隠せない言葉を多く頂きました。

今まで当たり前だったこと、普通に出来ていたことが

出来ない日々が続いていました。そのなかで今回、職員は利用者様の変わらない笑顔に、クリスマス会が行えたことに安堵いたしました。

今なお収束をみせない新型コロナウイルスで、活動自粛を余儀なくされていますが、進化あるイベントを考案し、今後も求めていく要望を胸に、皆様と一緒に喜びを作り上げていこうと思いました。

あじさい通り 宮下 健一

## 温冷配膳車を導入しました



昨年12月23日に配膳車から替わって、温冷配膳車が稼働しました。厨房から1～3階各階の食堂に入居者様の食事が、運ばれています。今までは、なるべく温かい状態で提供しようとしても、盛り付けてから食堂へ運ぶ時間と入居者が食堂

へ来る時間がかかるため、冷めてしまっていました。

施設基準になっていないため、導入にも後ろ向きでした。しかし、新しい施設では適温適時は当然になって必要となりました。まだ、「食事がおいしくなったね」「おかすが温かいよ」といった直接的な言葉はいただいていませんが、事前に公表していないにもかかわらず、好評なようで残食数が明らかに減ったという報告をいただきました。

事務 木村 清志



## 餅つき大会を行いました

介護老人保健施設・平成の森

12月21日、平成の森では餅つき大会を行いました。本物の杵と臼を用いて行うのは初めての試みで、上手くいくかどうか不安でしたが、予想以上の盛り上がりとなりました。

通所リハビリでは、利用者様から指導を受けながら行いました。経験者の方が多くおられたため、「もっと、腰を入れて!」など、指導にも熱が入りました。臼を運びながら各フロアを訪問したのですが、本物の臼はとても重く、一人では持ち上げることができませんでした。しかし本物だけあって、餅をついている様子はとても迫力があり利用者様からも多くの支援をいただきました。法被を羽織り、ねじり鉢巻きを

巻いて大きな声で音頭を取ってらっしゃる方や、100歳を超える方にも杵を持ちあげてついて頂きました。ついたお餅は鏡餅にして各フロアに飾りました。初めてのイベントだった為準備から手探りで行ないましたが、職員の協力もあり無事に成功を収める事が出来ました。伝統のイベントを今後も続けていければと思います。

あじさい通り 細谷 剛



## クリスマスレクリエーションを行いました

平成の森・川島病院

今年も12月に、クリスマスレクリエーションを行いました。スタッフによる踊りから始まり、前回のレクで患者様達が作成したクリスマスツリーを利用したすごろくゲームを楽しみました。マス目のお題に沿ってクイズや

歌・体操などをみんなで言い、とても盛り上がりました。プレゼントも受け取り、ケーキやシャンメリーを召し上がりたくさんの笑顔あふれるクリスマス会となりました。

2階病棟



### 編集後記 皆様に心より感謝申し上げます。

たくさんの方々の支援によって、今号も無事に発行することができました。私がこの記事を書いている時期は、寒さもより一層厳しくなり、1都3県に二度目の緊急事態宣言が発令されました。引き続き、不要不急の外出は控え、手指消毒、マスク着用等、感染予防をしっかり行っていきたいと考えております。皆様も、時節柄どうかご自愛くださいますようお願い申し上げます。

介護老人保健施設 岡田 健二郎

## 川島ロイヤル・ワム・タウン



平成の森・川島病院	電話 049 (297) 2811
ロイヤルケアホーム川島(サービス付き高齢者向け住宅)	電話 049 (299) 0880
訪問看護ステーション 平成の森	電話 049 (297) 8331
介護老人保健施設 平成の森	電話 049 (297) 8808
居宅介護支援事業所 きすな	電話 049 (297) 8797
川島クリニック	電話 049 (297) 8783